

1 沿革

■昭和28年6月1日 診療開始

○地域住民の診療

京都府北部の災害救護の一拠点 整備し開設

○一般病床90床、内科・外科・放射線科で発足。

■昭和43年5月 本館等全面増改築工事完成

■昭和61年 眼科開設

■平成元年 整形外科開設

■平成11年8月 本館等増改築工事全面完成

■平成11年 訪問看護ステーション開設

■平成22年8月 消化器科設置「消化器内科」標榜

■平成26年9月

東館「リハビリテーションセンター」・
回復期リハビリテーション病棟完成



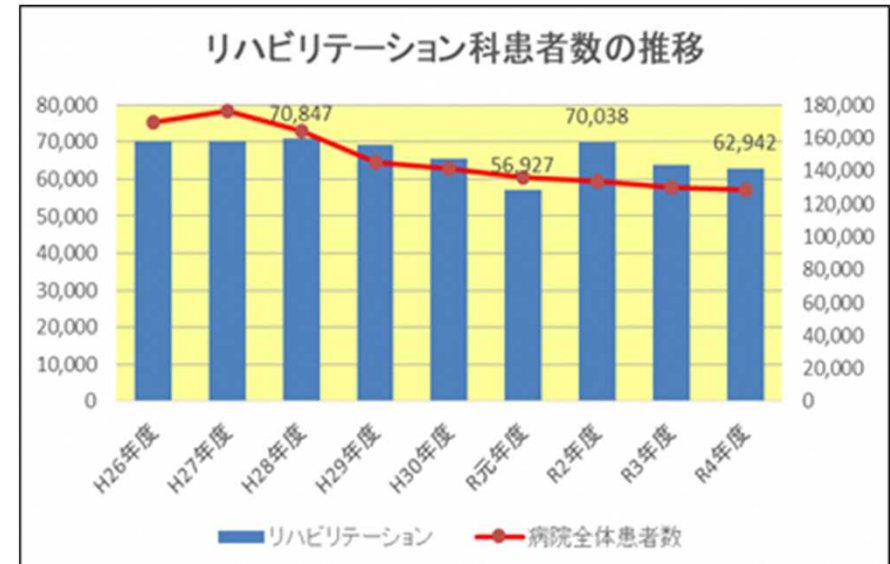
2 舞鶴赤十字病院理念

赤十字理念「人道・博愛」のもと、一人ひとりにやさしさと思いやりをもって、いのちと健康、尊厳を守り、地域医療に貢献します。

3 舞鶴赤十字病院の特色(1)

◆中丹地域医療再生計画(2014)における病院の方向性(選択と集中・分担と連携)

- 整形外科が充実している特色を生かし、回復期病棟やリハビリテーション施設の整備を行い、「リハビリテーションセンター」としての機能を充実・強化



- 舞鶴市民病院が有していた「緊急被ばく医療体制」を継承し、府緊急時放射線検査施設を整備

被爆線量の計測装置



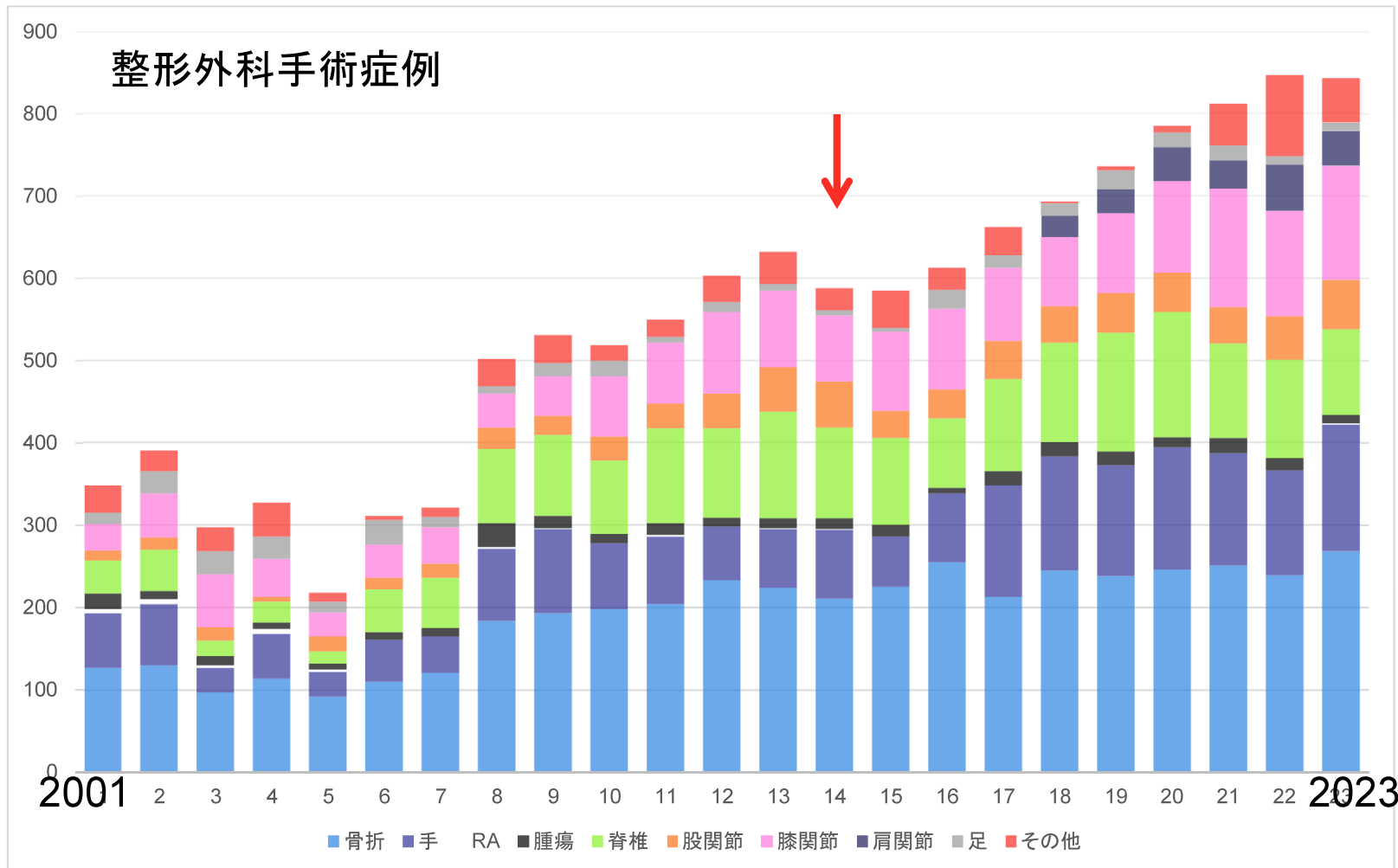
除染



3 舞鶴赤十字病院の特色(2)

◆中丹地域医療再生計画(2014)における病院の方向性(選択と集中・分担と連携)

- 整形外科が充実している特色を生かし、回復期病棟やリハビリテーション施設の整備を行い、「リハビリテーションセンター」としての機能を充実・強化



人工関節手術支援ロボット

3 舞鶴赤十字病院の特色(3)

◆急性期から回復期、在宅まで

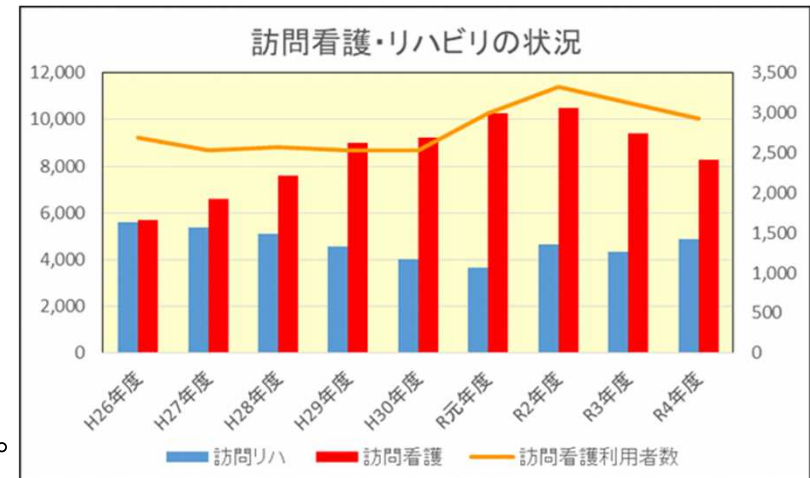
- 訪問看護・訪問リハビリ： 退院後の方が自宅などで安心して暮らせるよう、看護師やリハスタッフが中心となりその方にあつた支援を提供。

◆西地区の拠点病院として新患・救急に対応

- 西地区を中心とした医療の拠点病院として、医療施設からの紹介患者はもとより、救急や予約制無しの初診外来にも対応。

◆赤十字救護活動の実施

《赤十字社の使命》：わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康・尊厳を守ります。



H28年熊本地震での活動



R6年能登半島地震での活動



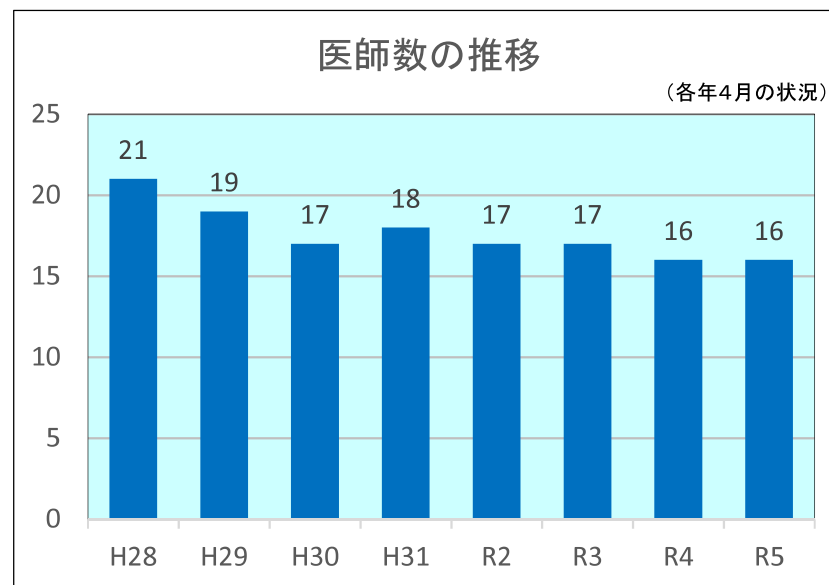
H23年東日本大震災での活動

4 舞鶴赤十字病院の課題(1)

(1) 医療人材の確保

① 医師：17名

- 内科 4名(嘱託等含む)
- 小児科 常勤なし(週4回)
- 消化器 2名
- 外科 2名
- 整形 5名
- 皮膚科 常勤なし(週2回)
- 眼科 2名
- 耳鼻科 常勤なし(週2回)
- 泌尿器科 常勤なし(週3回)
- 麻酔科 1名(嘱託)
- 神経内科 常勤なし(週1回)
- リハビリテーション科 1名(令和6年1月)



○内科は、当直業務などに、京都府立医科大学から非常勤医師の派遣を受けている。

② 看護師：147名

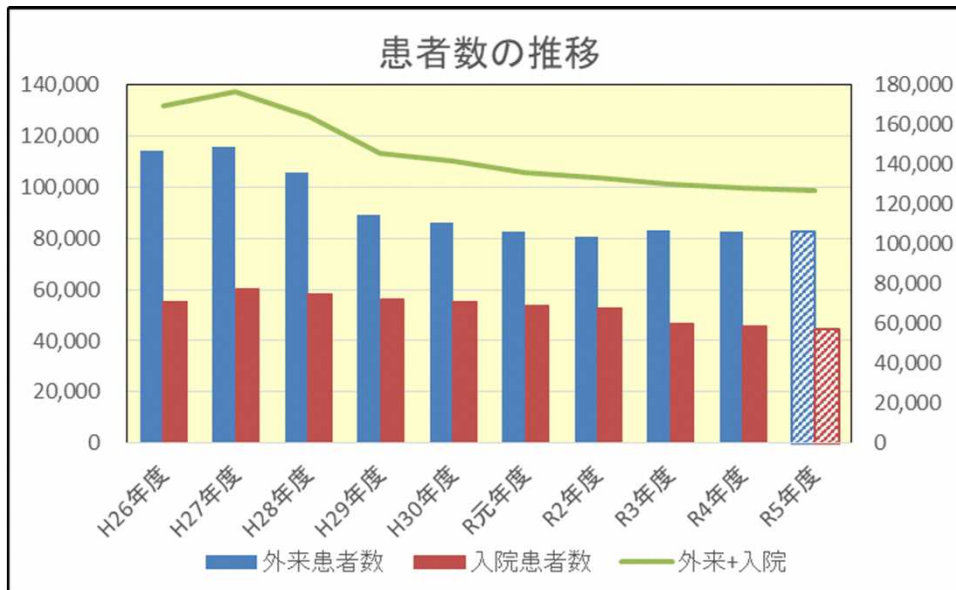
- 看護師・看護助手の新規採用が難しくなっている。
 - ・四年制大学への進学
 - ・地元の看護専門学校の縮小
- ※新型コロナウイルス感染症対応による就労環境の悪化等の影響もあり中途退職も増加

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
正規職員	137	141	131	124	122
臨時職員	23	25	24	23	23
合計	160	166	155	147	145

③ 薬剤師：3名

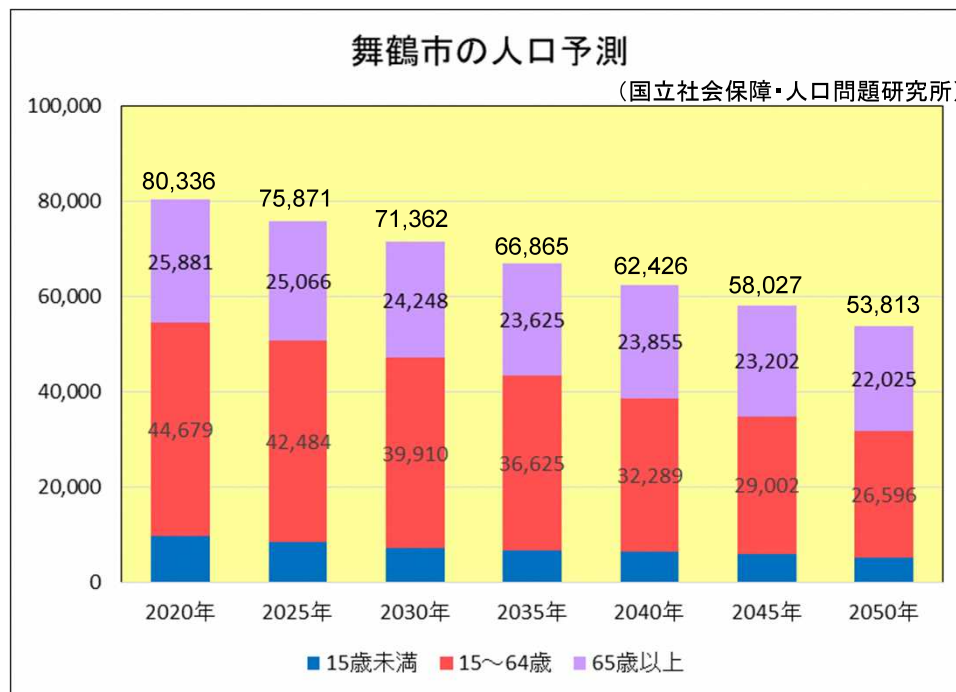
- 現在定数に大きく満たない状況。(来年4月に1名採用予定であるが、全体として2名不足)
 - ・人材は調剤薬局へとシフト
 - ・人数減による就労環境の悪化が懸念

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
薬剤師数	5	6	5	3	4



◆外来・入院患者数の減少

- 患者数は右肩下がりの傾向
平成26年～27年にいったん回復したが、その後も減少。
- 直近の状況は、外来患者数はコロナの発熱外来等の増加により令和3年度に一旦増加したが、その後は減少。
入院患者は連続して減少傾向にある。
- 令和5年度も減少傾向であり、入院・外来とも、平成27年と比較すると約70%程度となっている。



◆舞鶴市の人口減少

- 舞鶴市の人口は減少傾向にあり、2045年には5万人強と推計されている。
- 老年人口の数も2020年の25,881人以降減少している。

持続可能な医療

医療に置けるSDGs